

がんと向き合うママ支援プロジェクト 調査結果報告書

はじめに

本プロジェクトは、代表の佐々木綾子の「ママ友」ががんに罹患したことをきっかけに、これまでの仕事を通して交流のあった、楽患ねっと訪問看護ステーション管理者/医療コーディネーター岩本ゆり、NPO 法人楽患ねっと理事長岩本貴、東京医療保健大学看護学科助手竹内博美、緩和ケア認定看護師島津ちほとともに、三菱財団の社会福祉研究・事業助成（平成 24 年度）を受けて始めました。

プロジェクトでは、ウェブ上でのアンケート調査、プチ企画会議（グループインタビュー）、ママサロンを行い、がんと向き合うママたちのニーズを把握するとともに、ママ同士をつなぎ、お互いの悩みや不安、愚痴や経験を聴きあったり、病気や治療に関する情報や子育てとの両立の仕方などに関する情報の交換をし合ったりして頂きました。アンケートへの参加者は 96 名、東京で開催した 3 回のプチ企画会議と 3 回のサロンへの延べ参加者数は合計 39 名（実人数 25 名）となり、参加者全員が参加後アンケートに「また参加したいと思う」と回答をしてくださいました。地方での開催希望も多数頂きましたが、実現には至らず、せめてもの試みということで最終回のサロンではスカイプ参加を可能としましたが、残念ながら、スカイプでの参加者はいませんでした。

2013 年 9 月末日で本プロジェクトは一旦終了させて頂きますが、引き続き各地でこのようなサロンを開催して頂けるようにとの思いから、参加者の声をまとめたリーフレットを発行し、また本報告書のダイジェスト版を作成いたしました。プロジェクトスタッフ一同、微力ではありますが、今後もサロン開催のご相談などに対応させて頂きたいと思っております。

アンケート調査では、プロジェクトやサロンに関してこんな意見を頂きました。

『ママでがん、特に小さな子供がいて、働いていてなど、似たような境遇の方に出会うことが少なかったのので、このプロジェクトで似たような悩みなどを共有できるのは、大変意義があると思う。』

『特に抗がん剤治療中の子供への接し方にはすごく悩みました。今、そういう悩みを持っている方が、こういうサロンで悩みを話せるなら、とても心強いことだと思います。』『サロンへの参加は私にとってはとても勇気のいることですが、同じような立場の人を自分で探すのは難しいこと。このようなプロジェクトを立ち上げていただき嬉しいし、興味があります。』『がんになって生活が一変し、突如孤独になりました。きつい治療がひとまず終了したときに、今まで通り変わらずやさしく励ましてくれる健常者の友達はたくさんいるのにどうしようもなく私は一人ぼっちで、本当に本当にさみしい…！と初めて気づきました。同病の仲間と話したい…強く思います。何かに導かれるようにしてここまでたどり着けました。こういう場があることに本当に感謝しています。』

自分の予後に関して不安ななか、子育てにも懸命に向き合っているママたち。ある時は馬鹿話や失敗談を共有して大笑いしながら、ある時は同じ状況にあるほかのママたちの辛い体験に心を痛め、お互いに勇気や元気を分け合って「ひとりじゃない」ことを実感することは、前を向いて生きていく大きな力となります。本プロジェクトが、そんな力を生み出す場を提供し、繋がりきっかけをつくるお手伝いできたとすれば幸いです。

ご協力頂きました皆様、本当にありがとうございました。

2013 年 9 月末日
がんと向き合うママ支援プロジェクト
代表 佐々木綾子

がんと向き合うママ支援プロジェクト（フォーママ）

【研究実施スタッフ】

千葉大学普遍教育センター	特任講師	佐々木綾子
楽患ねっと訪問看護ステーション	管理者	岩本ゆり
NPO法人 楽患ねっと	理事長	岩本貴
東京医療保健大学看護学科	助手	竹内博美
緩和ケア認定看護師		島津ちほ

【研究協力者】（敬称略）

川崎市立井田病院かわさき総合ケアセンター	医師	西 智弘
日本訪問看護振興財団立あすか山訪問看護ステーション	所長	田中道子

【リーフレット&報告書ダイジェストデザイン】（敬称略）

松本美由希（Hayamableu designing）

【広報協力者】（敬称略）

若年性がん患者団体 STAND UP!!
新井秀彦（トライアングル保険サービス株式会社）
ユメちゃん（乳がんサバイバー・乳がん体験者コーディネーター）
ラク（アメブロ）

その他、ブログや口コミにてプロジェクト周知にご協力頂きました参加者の皆様、参加者のお子さんたちと一緒に遊んでくれた託児ボランティアの皆様、本調査研究に助成をしてくださった三菱財団に心より感謝申し上げます。